

智頭町文化協会 第4回文化振興事業

公演 「因幡の伝統芸能」

2026年7月26日(日) 開演13:30～(開場13:00)

智頭町総合センター 大集会室

鳥取県東部のそれぞれの地域で、連続と受け継がれてきた独特な踊りの文化。
発祥の時代も経緯も異なる伝統芸能にご期待ください。



ちづの 町と森の 演劇祭2026

Theatre Festival in the Town and the Mountains of Chizu

2026年7月3日(金)～26日(日)
鳥取県智頭町にて開催

「ちづの町と森の演劇祭」は、今年で3回目を迎えます。
7月中、智頭町内各所で4つの上演を行います。
様々な形の舞台をぜひお楽しみください。

■料金(日時指定・全席自由)

公演	公演名	公演日時	会場	料金
公演	① 「マニュアル」	7月3日(金)～5日(日)	ちづの森 ちづ図書館	一般 1,500円 18歳以下 500円 中学生 無料 ※中学生以上来場
	② 影絵芝居「鯨生～Geio～」	7月17日(金)	智頭町総合センター	一般 1,000円 18歳以下 500円 小・中学生 無料
	③ 朗読上演「ちづのこえ」	7月19日(日) 20日(月・祝)	ひだまりホール	一般 1,000円 18歳以下 500円 小・中学生 無料
	④ 公演「因幡の伝統芸能」	7月26日(日)	智頭町総合センター	一般 500円 高校生以下 無料
ワークショップ	華あそび「中華の龍人」を作ろう!	7月12日(日)	智頭町総合センター	3,000円
	切り絵・影絵ワークショップ「鯨の住む町、鯨の好きな風景」	7月18日(土)	智頭町総合センター	500円
	藍のたたき染めワークショップ	7月18日(土)	藍染工房ちづぶら	2,200円

●前売りセット券(公演①～③対象)

3演目(公演①～③)	一般 2,800円
2演目(公演①+②or③)	一般 2,000円
2演目(公演②+③)	一般 1,600円

■託児 ☺
公演①～③にて、託児を行います。
公演前日までにお申し込みください。
※公演②(影絵芝居「鯨生～Geio～」)は19時の回のみ実施。

■会場



■チケット購入・ワークショップ申込み

公演チケット ワークショップ

・智頭町総合センター
・智頭町観光協会

※前売りセット券の販売は無し

託児申込み、各種問合せはこちらへ

メール chizutheatrefestival@gmail.com
電話 090-1115-0487 (担当: 米井)

「このほの」の「ほの」は智頭町(栗原5期)のみです。

- ちづの森 ちづ図書館(鳥取県八頭郡智頭町智頭200-1)
- 智頭町総合センター(鳥取県八頭郡智頭町智頭200-2)
- 智頭町保健・医療・福祉総合センター「ほのほの」ひだまりホール(鳥取県八頭郡智頭町智頭1875)
- 藍染工房ちづぶら(鳥取県八頭郡智頭町智頭555)

アダム・キナー&クリストファー・ワイレス 図書館での上演「マニュアル」



Photo: David Wong

私道かび 作・演出 朗読上演「ちづのこえ」



鳥取県東部の芸能が集う舞台

作品づくりを体験するワークショップ、智頭の手仕事に触れるワークショップも行います

主催: ちづの町と森の演劇祭実行委員会 共催: 智頭町文化協会 運営: 智頭町文化協会 協賛: 智頭町観光協会 後援: 智頭町、智頭町教育委員会
協賛: 公益財団法人 福沢財団、ちづの文化振興財団、令和4年度鳥取県心の芸術祭実行委員会



アダム・キナー&クリストファー・ウィレス 「マニュアル」

MANUAL by Adam Kinner & Christopher Willes

いつもの図書館で体験する、いつもと少し違う時間

「マニュアル」は、図書館を舞台に、1人の演者が1人の観客に対して行う、1対1の上演です。観客はガイド役となる演者に導かれながら、開館中の図書館内を静かに歩き、一緒に本を眺め、ヘッドホンから流れる音に耳を傾けます。普段とは異なる時間の中に没入しながら、見る、聴くといった感覚を通して、公共の場所である図書館を少しだけ違う角度から体験します。

出演 アダム・キナー、クリストファー・ウィレス、中垣直久、山口恵子 ほか



アダム・キナー&クリストファー・ウィレス
Adam Kinner & Christopher Willes

カナダのモントリオールを拠点に活動するアーティスト。上演を通して、非日常的な感覚を帯びた作品を多く手がけている。二人の作品はしばしば公共の場所で上演され、その場所や音に没入すること、観客の視点や参加といったことから成り立っている。「マニュアル」は、同じくモントリオールで活動するダンサーで製菓家のハンナ・シビル・ミューラーとのコラボレーションによって創られた。

助成 Canada Council for the Arts, Conseil des arts et des lettres du Québec
協力 テアトル・ドゥ・クワベック



撮影:吉本和樹 撮影:京都府立芸術大学、KYOTO EXPERIMENT

7月3日(金)～5日(日)

会場 もえの森 ちづ図書館

開演(各日)

10:00 | 10:20 | 11:10 | 11:30 | 12:20 |
12:40 | 14:00 | 14:20 | 15:10 | 15:30 |
16:20 | 16:40

上演時間 約45分

※16:40開演の日は7月3日(金)のみ
※中学生以上推奨
※集合場所・時間は、ご予約後にお知らせします。

7月19日(日)・20日(月・祝)

会場 ひだまりホール
(智頭町保健・医療・福祉総合センター
「ほのぼの」内)

開演(両日) 14:00(開場13:30)

上演時間 予定60分

助成:公益財団法人シズン文化財団
(「ちづのこえ」演劇制作・上演に對して)

朗読上演「ちづのこえ」

Drama reading Voices of Chizu

劇作家がつむぐ「智頭のはなし」

劇作家の私道かびさんは、昨年4月以降何度も智頭町を訪れ、町に暮らす人々から話を聞いてきました。宿場町の昔の姿、山での仕事、かつてあった映画館、受け継がれる芸術のこと、など、そういった「智頭のはなし」をまとめたのが、朗読上演「ちづのこえ」です。舞台上で語られる物語から、いつもの智頭の「こえ」を受け取ってください。

作・演出 私道かび 出演 藤野あき、片瀬優乃佳 ほか



私道かび Kapi Shido

神戸市出身。劇作家、アーティスト。京都を拠点に活動する団体「安住の地」所属。各地に実際に滞在し、聞いた話を基に作品をつくる。近年はお祭りや養蚕、ダムの変遷や旧地など土地とつながりの深いテーマで制作している。地域に滞在してその土地の歴史をテーマに制作する音声インスタレーション「〇〇のこえ」シリーズは、「歌のこえ(2022)」「岡地のこえ(2023)」「みやこのこえ(2024)」「越後賢女さきめぐるこえ(2024)」「かないのこえ(2024)」「かまのこえ(2025)」とこれまで6作品制作している。

「ちづのこえ」と一緒に朗読してくれる方を募集しています!

対象 中学生以上で、練習と公演に参加できる方(経験は問いません) フォーム(QRコード)からお申込みください。

練習日 6月26日(金)～28日(日)・7月17日(金)・18日(土)

※練習時間は、参加される方と相談の上決定します。
※全期間の参加が難しい場合は、ご相談ください。

影絵芝居「鯨生～Geio～」

Shadow puppetry Geio

与那国島の海底遺跡で展開する海のおとぎ話

「鯨生」は、台湾の劇作家・演出家リン・モンホンが、与那国島から海を隔てた台湾の街・花蓮で書きあげた「海のおとぎ話」です。鯨生(台湾の日本統治時代に台湾で生まれた日本人)の女性の物語を、美しい影絵で描きます。

■あらすじ

台湾・花蓮の海辺で一人のお婆さんが歌を歌っています。お婆さんの名前は「鯨生」といい、与那国島のお父さんと台湾のお母さんの間に生まれて、ずっと花蓮の街で暮らしてきました。お婆さんは、静かに自分が子どもだった頃の記憶を語りはじめます。「あなたがお婆のなかにいる時に、母さんが夢を見たの。それは竜宮城の夢だった。」台湾、海底遺跡、海の子、山桃の木、果たされなかった約束と悲しい別れの物語。

作・演出:美術 リン・モンホン(林孟寰) 再演出: E-RUN 音楽 鈴木光介
出演 東盛あいか、久保恒雄 舞台監督 倉本聡 企画制作 亜細亜の骨

7月17日(金)

会場 智頭町総合センター 大集會室

開演 11:00 | 13:30 | 19:00 (開場15分前)

上演時間 約40分

※上演後に作品解説あり
※19:00の回は、与那国語で上演します。
(日本語字幕あり)



撮影:亜細亜の骨

智頭の手仕事体験

ワークショップ

智頭町には、伝統的な手法を用いたものから現代的なものまで、多くの手仕事やもの作りがあります。演劇祭の上演と合わせて、ぜひ体験してみませんか? 演劇祭の公演チケットを購入された方は、参加料半額でご参加いただけます。

■lore + needles

「革あそび - "牛革の鍵入れ" を作ろう!

■ちづふるー「藍のたたき染めワークショップ」

7月12日(日) 13:30～15:30

使うほどに味や色になる牛革革を使って鍵入れをつくりたい。革の基本知識から穴あけ、手縫いなど、つくり方を紹介いたします。革はともども長く使え、壊れにくい素材です。使えば使うほど、使った手の温度が現れ、変化する不思議な素材です。自分で作る革小物はいかがですか?



https://loreandneedles.com/



https://chizublu.co.jp/

7月18日(土) 13:00～14:00

智頭町で種から育てた藍の葉を使い、夏のたたき染の体験です。新鮮な葉をトナカイでハンカチに叩き、自分だけのデザインを描きませんか? 仕上げに石鹸水で洗って、緑から水色へ鮮やかに発色します。

lore + needlesは、革職人の濱口恵実さんが2018年9月に智頭町に移住し、翌年6月に立ち上げた革小物ブランドです。民藝の考えを基本に、個案で飾らない、使うたびに美くなる日用品を素材と遊びながら手作りしています。

2005年に地元的女性たちが企業組合として立ち上げた藍染工房ちづふるーは、自分たちで育てた藍を使い、智頭ならではの藍色を追求しています。近年では、フランスやシンガポールなど、海外での展示会にも参加しています。

会場 智頭町総合センター 技術研修室

対象 小学生以上 ※小学生は必ず保護者同伴でご参加ください。

人数 6名まで (先着順)

参加料 3,000円(材料費込み) / 演劇祭チケット購入者は1,500円

※細かい作業があるので、必要に応じてメガネをご持参ください。

申込み締切り 7月9日(木)

会場 藍染工房ちづふるー

※駐車場は智頭町民グラウンドをご利用ください(裏面の地図参照)。

対象 小学生以上 ※小学生は必ず保護者同伴でご参加ください。

人数 6名まで (先着順)

参加料 2,200円(材料費込み) / 演劇祭チケット購入者は1,100円

※汚れても問題ない服装でご参加ください。

申込み締切り 7月17日(金)

切り絵・影絵ワークショップ 「私の住む町、私の好きな風景」

影絵で自分や町の物語を描いてみよう!

会場 智頭町総合センター 大集會室



7月18日(土) 10:00～11:30

対象 小学生以上 人数 10名程度

参加料 500円

鳥取市内のからくででもワークショップが開催されます。

7月18日(土) 15:00～16:30

詳細は、お電話(0857-22-7070)までお問い合わせください。

※お申込みについては裏面をご覧ください。